



# 2008年度社会性報告・環境報告の総括と自己評価

取り組み事項	活動項目	活動内容	自己評価	備考
製品への取り組み	品質管理体制強化 品質への取り組み	経営トップが品質方針を明確にし、品質管理体制の強化と改善に取り組みました。	○	
		品質管理室はクリモトグループ全体の品質管理レベル向上をはかり、実務担当から経営トップまで情報共有を推進しています。	○	
		品質保証部門連絡会議を定期開催し、お客様から寄せられた情報を共有化し、グループ内で品質管理の取り組みを相互チェックしています。	○	
		事業再編に伴ったISO9001拡大認証・分割認証取得を推進しました。	○	
お客様とのかかわり	品質方針と品質保証 行動宣言	みなさまに安心と信頼をいただけるモノづくりの思いと分かりやすい製品情報発信に努めています。 お客様からの情報を誠実に受け取り、グループ従業員全員が品質の確保に最善を尽くしています。	○	
	お客様からの情報対応			
取引先とのかかわり	協力会社等との連携	従業員に対してコンプライアンス強調月間に下請法の周知と順法を徹底する説明会を開催しました。	○	
株主・投資家とのかかわり	情報開示	ホームページを通じて決算短信等の会社情報を報告しました。	○	
		株主総会会場で新製品等をまとめたトピックスビデオを見ていただき、当社の事業をご理解いただくように努めました。	○	
地域社会とのかかわり	清掃活動への参加	河川、道路、公園等のクリーン作戦に継続して参加しました。	○	
	見学会の開催	地元中学生に対して、工場見学を開催しました。	○	
	環境学習講座への参加	「エコスクール」に継続して参加し、環境に関する授業を実施しました。	○	
対外コミュニケーション活動	講演会の開催	外部の寄附研究に関連した新技術の研究発表大会等を開催しました。	○	
	展示会の開催	国内外で各種の展示会に出品して、環境負荷低減製品を見ていただきました。	○	
従業員とのかかわり	社員の能力開発	各職能に因んだ役割を遂行できるように教育体系を明確にして運用しています。	○	
	人権尊重への取り組み	各階層を対象に人権研修を実施しました。	○	
	障がい者の雇用	法定雇用率(1.8%)を上回る結果となりました。	○	
	高齢者の雇用	再雇用制度を運用して、2008年度の再雇用率は70%を超えました。	○	
安全衛生への取り組み	労働災害発生防止	2008年の全乗本労働災害発生件数は38件で、前年より14件増加しました。	△	独自の安全管理制度で発生防止に取り組む
	健康障害防止対策	過重労働による健康障害防止対策と職場におけるメンタルヘルス対策については、労使で取り組んでいます。	○	

取り組み事項	活動項目	活動内容	自己評価	備考
地球環境への 取り組み	環境経営	環境への配慮を企業経営に統合する環境経営に取り組み始めました。	△	長期環境 ビジョンの 策定が必要
	環境教育と啓発	社内報、環境アンケート等を通じて全従業員に環境への理解と環境への意識向上をはかりました。	○	
	環境社会 (eco) 検定 にチャレンジ	環境に対する幅広い知識をもち、社会の中で率先して環境問題に取り組む人づくりとして環境社会 (eco) 検定にチャレンジしています。	○	
	グリーン購入	2008年度では購入金額で66.3%でしたが、70%以上を目指します。	△	ネットワーク 情報を活用
	CO <sub>2</sub> 排出量	1990年基準に対して、2010年度に40%削減目標ですが、2008年度で42.7%と達成しました。	○	
	PRTR 法対象物質	製品塗装に使用されるVOCは、2008年度には排出量前年度比21%の削減でした。	○	
	水使用量	2008年度では前年度比14.3%の削減でした。	○	
	運輸のエネルギー使用量	2008年度では前年度比16.2%の削減でした。	○	
	廃棄物削減	2008年度は再資源化率88.6%でした。 2010年度に99%を目標として活動をしています。	△	再資源化率が 低い事業場を 重点的に改善 支援

○:達成 △:未達成または継続中

## 総括

取り組み事項ごとの活動結果は、労働災害発生防止を除いてほぼ目標を達成したレベルにあると判断します。特にCO<sub>2</sub>排出量低減に関しては、排出源そのものが減少したこともあります。キューポラの改造など技術的に取り組んだことも大きな要因としてあげることができると考えています。しかし、これまで順調に進んできたCO<sub>2</sub>削減活動は、大きな削減を期待する取り組み項目が少なくなったこともあり、残された小さな改善の積み重ねを推進していく必要があります。

一方、労働災害件数は38件にもなり、おおいに反省しなければならない結果となりました。本件は次年度以降へ向けた大きな課題となりましたが、「基本の重視と徹底」を浸透させ、災害を発生させない「安全文化」を作り上げる活動を展開していかなければなりません。

また、廃棄物削減活動も3R活動に加えて、入口での削減、すなわち不良率の低減なども考慮にいれながら廃棄物そのものを低減させる活動も必要だと考えています。

各項目ごとの活動結果より「良かった点」「修正する点」を整理し、次年度の活動に展開し、スパイラルアップを行っていきます。